

富山県大東鉱山水鉛鉍床概査報告 (菊池徹・大津秀夫)

を受け、一部には黑色硫化鉄の鉍染もみられる。また^{フイテ}涌蓋山西方の山川附近では昭和12年頃からカオリン中の黑色硫化鉄^{**}が採掘された。また九重山北方では硫気孔から硫黄を採取している。

鉱山の近くには(2km以内)温泉および噴気孔の存在はみられないが、かつて附近にも活動したことは想像できる。蛋白石化および粘土化作用と共に、S 10~20%程度を含む硫化鉄の鉍染帯があり、さらにその中にS40%程度の富鉍部が存在する(硫黄はほとんどない)ことは特徴的である。主として弱硫酸性溶液の作用が考えられ、硫化鉄の鉄分は原岩の鉄から供給され、そのままの位置および幾分移動して硫化鉄を沈澱鉍染し、さらに恐らく割目等に濃集した部分が高品位な鉍体を形造つたものであろう。

6. 品位および鉍量

東洋高圧株式会社大牟田工業所に出荷した鉍石を貨車毎に分析した値は、最高S49.0%最低S27.1%で35%~40%が多い。調査当時行つた鉍床の採取試料の値もS40%内外を示す。

東洋高圧で行つた鉍石の分析の一例は次の通りである。

番号	SiO ₂ (%)	H ₂ O (%)	Total Fe (%)	Total S (%)	Free S (%)	備考
1	19.87	5.03	29.18	34.36	none	原鉍のまま乾燥せる分
2	18.80	0.32	35.42	41.44	none	2回水洗残留分
3	36.95	16.56	18.53	22.10	none	2回水洗流出分

鉍量は鉍床の項で説明したように鉍体が比較的不規則な形を示すので、算定困難である。ただ現在採掘中の鉍体について、既に4,000t近く採掘されているが、残10,000t位は推定しうる。一番坑地並から下部は未探鉍で不

明であるが、賦存の可能性はある。

7. 結論

(1) 鉍床附近の母岩の変質および黑色硫化鉄鉍の賦存状況については、略々その概略を掴むことができた。—すなわち恐らく集塊岩とその上の火山礫・火山灰の一部が蛋白石化および粘土化された所に主として白鉍鉍および若干の黄鉍鉍が鉍染し、その中で特に白鉍鉍と黄鉍鉍の混合物が(塊鉍と称す)鉍床として稼行の対象となつている。硫黄はほとんどみられず「タカ目」型の硫黄が部分的に存在する。

(2) 現在はその痕跡もわからないが、恐らく温泉式の噴気孔の作用によつて生成された非常に新しい時代の活動によるものと考えられる。

(3) 露頭その他の状況から変質帯の分布の形状は不規則の如く、ただ鉍体の一部はたしかに略々南北に延びた形を呈している。

(4) 附近は高原で露出が極めて少ないから、変質帯の露出が見えなくても、そして変質帯や鉍体が賦存しないとは必ずしもいえない(恐らく鉍床生成後にも火山灰・火山礫が堆積したと思われるから)。

以上の点から下記のことが望まし

- い。
- (1) 電気探鉍による鉍体周辺の探鉍
- (2) 試錐による既知鉍体下部の確認および電探後の試錐
- (3) 地表の地質調査は概ね無意味で、井戸掘あるいは溝掘りによる地質鉍床調査
- (4) 坑道の掘進による地質の変化の把握 (昭和25年9月調査)

553.462: 553.661: 553.411: 550.8 (521.42): 622.19

富山県大東鉱山水鉛鉍床概査報告

菊池徹* 大津秀夫*

Résumé
Molybdenite Deposits at Daitō Mine,
Toyama Prefecture.

by
Tōru Kikuchi & Hideo Ōtsu

In Summer of 1951, the authors surveyed the molybdenite deposits at Daitō mine in the area of high mountain land of the so-called Japan Alps.

The location of the mine is extremely inconvenient for mining works and transportation that why the remain unexplored.

** 本下亀城「九州の淺熱水性硫化鉍」九州鉱山學會誌 11卷8號
* 鉍床部

1. 緒 言

昭和26年夏富山県大東鉱山の水鉛・硫黄ならびに金鉱の概査を行つたので、ここに報告する。

現地調査中種々御厚情をたまわつた、名古屋通産局北陸鉱山事務所所長千村勘・同所加藤信爾・富山県商工課浅野久男ならびに同県鉱業会理事藤井晋八の諸氏に深謝する次第である。なお現地調査に当り、現地地形の航空寫眞を貸与された総司令部の厚意に感謝する。

2. 位置および交通

鉱区位置：富山県上新川郡大山村大字有峯山

1:200,000 地質図幅：高山

1:50,000 地形図：槍ヶ嶽

鉱床は水晶山(2,978m)および赤牛嶽(2,864m)の西側斜面にある。

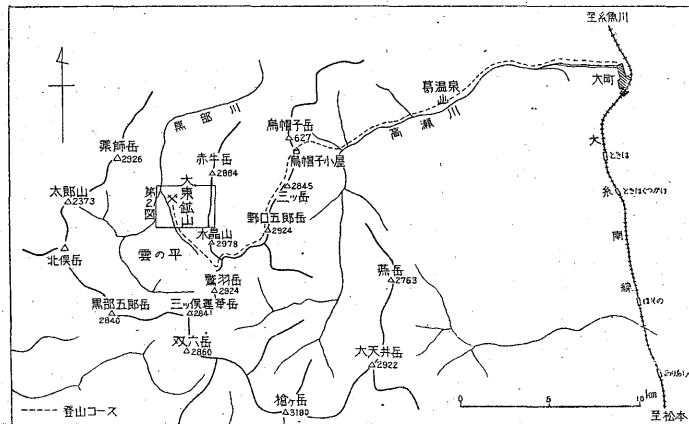
大町より葛温泉まで約12kmはバスが利用できるが、それより鉱山までは総て徒歩による。中継所として鳥帽子嶽(2,627m)登山小屋を利用し、大町—鉱山間は普通登り2日行程、降り1日行程である。資材・物資の運搬ならびに鉱石の搬出にも上記コースを利用するので甚だ不便である。

3. 地形および気候

中部山岳国立公園の中心に位置するので地形は極めて峻峻であり、大町—鉱山間のコースでは、鳥帽子嶽(2,627m)・三ツ嶽(2,845m)・野口五郎嶽(2,924m)等の諸峯を越えなければならぬし、鉱床附近には水晶山(2,978m)・赤牛嶽(2,864m)等の高峯が屹立すると共に、現場(2,000m)附近は黒部川の源頭に当り幽谷を形成している。

気候は極めて冷寒であり、例年10月より翌年6月中旬までは積雪多く交通が杜絶する。故に一年を通じての稼働日数は、最大4カ月である。

4. 沿革および現況



第1図 大東鉱山位置図

富山試登第1206号鉱区のみは、古く九州の人、岡田宏之の手にあつたが、大正15年、現権者星勇九郎に移り、その買山調査の結果、他の鉱区も設定、昭和4年温泉沢および岩苔小谷の水鉛を発見、昭和6年現在の山元事務所(小屋)を設け、続いて高天原方面を探鉱、戦時中少しく水鉛を採掘した。終戦後は金鉱の探鉱のみを行っている。

昭和6年~20年の水鉛出鉱量は総計約30t(50~90% M_0S_2)で、その出荷先は、昭和電工塩尻工場・玉川特殊鋼株式会社(蒲田)あるいは日本冶金株式会社等があつたという。

現鉱業権者 大東鉱業株式会社 (代表 星勇九郎)
 鉱山事務所 長野県北安曇郡信濃大町
 鉱区番号 富山試登第1206号 (953,000坪)
 富山試登第1213号 (875,200坪)
 同 同 1468号 (414,500坪)
 同 同 1469号 (494,500坪)

従業員 (昭和26年8月現在):

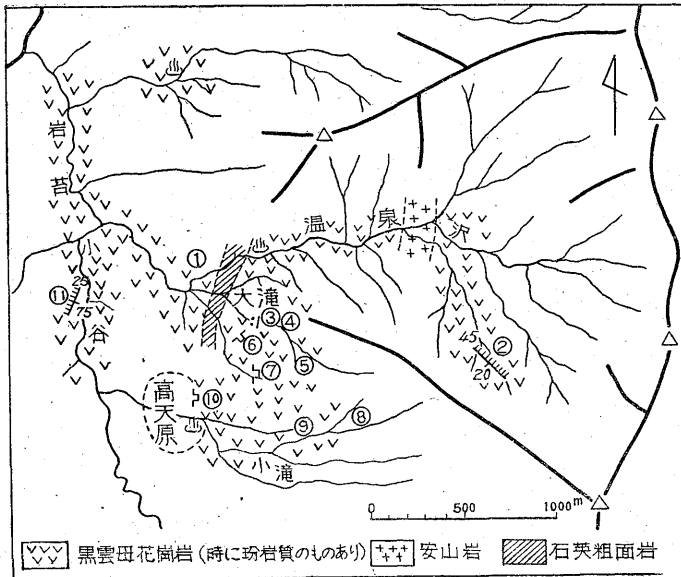
採鉱夫	2	} 計 11名 (ただし現場関係のみ)
雑夫	4	
負荷人夫	4	
係員	1	

5. 地 質

鉱床附近の地質は、粗粒黒雲母花崗岩・花崗閃緑岩等を貫いて、珩岩・石英斑岩の岩脈があり、これらを被つて礫岩・砂岩層(ジュラ紀層という)がある。さらにこれらを新期の火山活動による火山岩類が被つている。

6. 鉱 床

当地域の水鉛鉱床は粗粒黒雲母花崗岩・花崗閃緑岩・石英閃緑岩および珩岩を貫く石英脈に伴つた含輝水鉛鉱石英脈である。脈幅は5cm~20cmであり、走向・傾斜は一定しない。その主なものは、温泉沢および岩苔小谷にある。前者は一般走向 $N45^\circ W$ 、平均傾斜 $20^\circ SE$ を有し、20mの間隔を置いて平均脈幅10cmの鉱脈が2枚ある。共に比較的堅硬緻密な輝水鉛鉱—石英脈であり、母岩は粗粒黒雲母花崗岩である。鉱脈中の輝水鉛鉱の集合は大きなものは拳大に達する。脈内見込平均品位は3%前後と推定される。岩苔小谷の水鉛鉱脈は、 $N25^\circ E$ 、 $75^\circ SE$ 、脈幅15cmであり、母岩は同じく黒雲母花崗岩であるが、輝水鉛鉱の母岩中に鉱染した部分が、上記温泉沢の鉱床に較べて多い。脈内見込平均品位は3%前後とみられる。これらの他に数カ所に水鉛鉱の露頭がみられる



第2図 鉱床附近概念図

- ① 鉱山事務所
- ② 温泉遼水鉛鉱脈
- ③ 大龍金鉱露頭
- ④ 大龍水鉛露頭
- ⑤ 大龍硫黄露頭
- ⑥ 金鉱第一坑
- ⑦ 金鉱第二坑
- ⑧ 小龍硫黄露頭
- ⑨ 小龍水鉛露頭
- ⑩ 金鉱高天原坑
- ⑪ 岩菅小谷水鉛露頭

が、まだ探鉱不十分であり、それらの関係は不明であると共に、まだ鉱量計算をする程に到らない。

硫黄鉱床は熔流型あるいは交代型と考えられるが、既にその大部分は浸蝕し去られて、2・3の尾根上に数100t程度残っているにすぎない。見込品位は40%前後とみられる。

553.94:551.78:550.8 (524)

北海道石狩炭田空知地区東部芦別区ノカナン地域地質調査第一次報告

沢田秀穂* 小島光夫*

Résumé

Preliminary Report of Geologic Survey at the Nokanan District in Ishikari Coal Field, Hokkaido.

by

Hideho Sawata & Teruo Kojima

Spending two monthes in the geologic field work in the summer, 1950, at the Nokanan district in Ishikari Coal Field, Hokkaido, writers recognized the following facts;

1. The half horst of Nokanan Cretaceous

金鉱床は一坑・二坑および高天原坑を開坑しており、石英脈を追つて探鉱しているが、まだ良好な鉱脈は発見されていない。当所において分析した結果によれば、二坑引立の脈幅品位は下記の如し。

Au : 痕跡 , Ag : 7 g/t

7. 結 言

以上の記述の内より、探鉱に必要な事項を列挙すると、

- 1° 交通搬出は不便である。
- 2° 気候冷寒で、一年に4ヵ月しか稼働できない。
- 3° 水鉛鉱床は黒雲母花崗岩等を母岩とする含輝水鉛鉱石英脈である。
- 4° 水鉛鉱脈の走向および傾斜は不規則であり、脈幅は5cm~20cmである。
- 5° 水鉛鉱床の品位および鉱量は未定である。
- 6° 硫黄鉱床は品位は良いが鉱量は少ない。
- 7° 金鉱床についてはまだ価値あるものは発見されない。

以上の諸項ならびに全般的事項から水鉛鉱床はさらに探鉱の要があると考え。それには、温泉沢の各坑を錘押坑道掘進により探査し、富鉱体への達着と共に全般的品位ならびに鉱量計算の基礎となる坑道を残す事が必要であろう。(昭和26年夏調査)

has the trend of N-S.

2. In both sides of the horst, there are found coal-bearing sandstone-mudstone beds. Their geologic ages are not yet known.
3. In the outer sides of these coal-bearing beds, there lie mudstone beds which may be correlated to the Poronai Mudstone bed in the Yubari Coal Field, Hokkaido, by the evidence of their facies and faunas in them.
4. In the northern part of the River Sorachi,

* 燃料部